

〈感想〉 2010年8月18日～22日までの4日間、国際的に権威のあるヨーロッパ地域学会(ERSA)主催により Jönköping, Sweden にて開催された ” 50th Anniversary European Congress of the Regional Science Association International -The 7th Workshop on Social Capital and Development Trends- “ に参加し口頭発表を行いました。本学会には、ヨーロッパをはじめとして、アメリカ、カナダ、日本、韓国などから約1300人以上の研究者が参加し、経済学、土木計画学、情報学、歴史学、地理学の分野における地域開発に関する先進研究について議論し合いました。本学会の特別セッションである ” The 7th Workshop on Social Capital and Development Trends” では、農山村地域の持続的な発展に関する各国の共通課題について議論し合い、ソーシャル・キャピタルの側面からの革新的な学問的展望を提供することを目的としたものであり、今回は、「創造的知識社会における持続可能な地域成長と発展」をテーマとして約20人の参加者が集まり、議論し合いました。

私の発表タイトルは “Participatory Approach to Community Based Water Supply System –An case study in Indonesian rural area” であり、卒業研究に新たな分析を加えたものです。英語の原稿を用意しリハーサルを入念に行うなど発表準備はしっかりと行っていたため、発表自体はスムーズに実施することが出来たと思うが、質疑応答に関しては英語の聞き取りが上手く出来ず、自分の英語力の未熟さを思い知った。研究内容を聴衆に伝えたいという強い欲求があるにもかかわらず、そのコミュニケーション手段としての英語力が不十分なために議論が行えず、無念さ・悔しさが残る結果となった。この経験を糧に、日々英語を使用する機会を積極的に設け、国際舞台で対等に議論できる英語力を身に付けなければならないと切に思う。

その他にも国際学会参加という経験を通じて、世界一流の研究者のプロフェッショナルリズムに触れることができ、同年代の研究者と交流するなど、非常に貴重な体験を数多く重ねることができた。若い内からこのような「刺激的」な体験をすることは、国際的な視野の獲得や目標の発見につながり、自分の人生に多大な影響を及ぼすはずである。

そして最後に、今回の海外渡航に関して支援金を助成され、貴重な機会を与えてくださった京土会の皆様に心から感謝申し上げます。この経験を最大限活かし、より一層研究活動に精進したいと思います。